

fusions

fusion_place
バックアップ／リストア
マニュアル

対応製品バージョン:3.x

第 3.2 版 : 2015 年 3 月 30 日



fusion_place は、株式会社フュージョンズの商標です。

Oracle, Java は、米国 Oracle Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 Microsoft, Windows, Windows Vista, Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他のブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

この文書の著作権は株式会社フュージョンズおよびその供給者に帰属します。著作権者が発行した文書による許可がない限り、個人的な使用目的以外でこの文書の一部または全部をいかなる形式または方法でも（転写、記録、情報検索システムへの利用などの電子的または機械的な方法を含む）複製または転載することを禁じます。

警告: この文書に含まれる情報はすべて、予告なしに変更されることがあります。株式会社フュージョンズは、この文書の誤りに対して責任を負いません。また、この文書の提供、実行または使用に関して生じた損害に対しても責任を負いません。

株式会社フュージョンズ
(本店所在地：東京都港区)

文書名：	fusion_place バックアップ／リスト アマニュアル
文書バージョン：	3.2
公開日：	2015年3月30日

目次

はじめに—当マニュアルの位置づけ	1
バックアップ／リストア対象.....	1
バックアップ／リストアの種類	2
バックアップの方法.....	2
リストアの方法.....	4
添付資料—データベースバックアップのためのバッチファイル例	5

はじめに—当マニュアルの位置づけ

fusion_place ソフトウェアには、standard（無償版）と premium（有償版）、2つのエディションがあります。当マニュアルは、いずれにも適用できます。当マニュアルは fusion_place のシステム設定及びデータベースのバックアップ及びリストア（回復）のための手続きについて解説します。従って、fusion_place 自体の設定には含まれない、以下のような事項については、各稼働環境での設定内容を踏まえてご対応下さい：

- サーバ側での fusion_place にまつわるバッチ処理（主にデータバックアップ）のためのファイルおよびスケジューラ設定の移行等

バックアップ／リストア対象

バックアップ／リストア対象には、以下の3つがあります。

データベースファイル

インストーラの初期提案値通りであれば、C:\¥FusionPlace_DB¥db フォルダ配下の全フォルダと全ファイルがデータベースを構成しています（フォルダは多階層となっている場合もあります）。

サーバ設定ファイル

インストーラの初期提案値通りであれば、C:\¥fusion_place_n.n¥conf フォルダ配下の server.xml ファイルです。fusion_place の古いバージョンではフォルダ名が、以下のいずれかであることもあります：

- C:\¥FusionPlace_n.n¥conf
- C:\¥fusion_ware_n.n¥conf

いずれにおいても、n.n 部分には実際のバージョン番号が入ります。

メモリ設定

ユーザマニュアルの「システム運用管理の手引き>04.運用管理手続き>04/メモリ管理」中の「サーバプログラムに対して割り当てられるメモリ量」の説明をご参照の上、「初期メモリ割り当て量」と「最大メモリ割り当て量」を把握・記録しておいて下さい。これらはファイルとしてバックアップすることはできません。

バックアップ／リストアの種類

バックアップ／リストアには、データベースのみを対象にする場合と、fusion_place のシステム全体を対象にする場合があります。それぞれの場合とバックアップ／リストア対象の関係は下表の通りです：

	データベースのみを対象にする場合	システム全体を対象にする場合
① データベースファイル	○	○
② サーバ設定ファイル	—	○
③ メモリ設定	—	○

バックアップの方法

データベースファイル

データベースの内容は刻々と変わっていくため、データベースファイルは日々バックアップする必要があります。

データベースファイル群は単にコピーすることによりバックアップできます。ただし、fusion_place のサーバプログラムは Windows サービス（FusionPlace サービスと呼びます）として稼働し、稼働中はデータベースファイルを随時更新している可能性があるため、バックアップ前にサービスを停止し、バックアップ後に再起動する必要があります。

停止／起動、及びデータベースファイルのコピーいずれも Windows コマンドプロンプトから実行できます。これらの処理を行うバッチファイルを作成し、Windows スケジューラに登録することで、定時処理化可能です。

参考① サーバの起動／停止方法

手作業での FusionPlace サービスの起動／停止方法は、ユーザマニュアルの「システム運用管理の手引き>04.運用管理手続き>01. サーバプログラムを起動する／停止する」をご参照下さい。

参考② バックアップ用バッチファイル例

データベースファイルバックアップのためのバッチファイルの記述例が添付資料に含まれています。ご参照下さい。

サーバ設定ファイル

インストーラの初期提案値通りであれば、サーバ設定ファイルは、
C:\fusion_place_n.n\conf フォルダ配下の server.xml ファイルです。fusion_place
の古いバージョンではフォルダ名が、以下のいずれかであることもあります：

- C:\FusionPlace_n.n\conf
- C:\fusion_ware_n.n\conf

いずれにおいても、n.n 部分には実際のバージョン番号が入ります。

このファイルの内容は fusion_place のインストール時に設定され、以降は手作業で編集しない限り変更されません。従って、インストール直後及びその後変更した場合はその都度、ファイルコピーによりバックアップして下さい。

メモリ設定

ユーザマニュアルの「システム運用管理の手引き>04.運用管理手続き>04/メモリ管理」中の「サーバプログラムに対して割り当てられるメモリ量」の説明をご参照の上、「初期メモリ割り当て量」と「最大メモリ割り当て量」を記録しておいて下さい。この設定も、fusion_place のインストール時及び手作業で編集したときのみ変更されます。

リストアの方法

データベースのみをリストアする場合

データベースだけリストアする場合は、バックアップしたデータベースファイル群を、データベースフォルダに置いて下さい。初期提案値通りであれば、**C:\¥FusionPlace_DB¥db** フォルダとなります。同名称フォルダがインストーラによって作成されているはずですが、そのフォルダおよびその配下の全フォルダと全ファイルを削除してから、バックアップファイル群をそこにコピーして下さい。

バックアップ時と同様、上記の前に **FusionPlace** サービスを停止し、バックアップ後に再起動する必要があります。手作業での **FusionPlace** サービスの起動／停止方法は、ユーザマニュアルの「システム運用管理の手引き>04.運用管理手続き>01. サーバプログラムを起動する／停止する」をご参照下さい。

fusion_place システム全体をリストアする場合

新しいサーバに移行するケースと基本的に同じですので、別マニュアル「サーバ移行手続き」をご覧ください。但し、以下にご注意ください：

- リストア先サーバに **fusion_place** があれば、アンインストールしておいて下さい。
- 「サーバ移行手続き」のうち、「移行対象データ／ファイルの確保」は不要です（バックアップ手続きにより確保済みであるため）。
- 「サーバ移行手続き」のうち、「クライアント PC の設定」も不要です（これまでの設定を変更する必要がないため）。

添付資料ーデータベースバックアップのためのバッチファイル例

```
@echo off
::
:: fusion_place データベースバックアップ
::
::      ・当バッチファイルの実行には管理者権限が必要です。
::      ・60日より古いバックアップは当バッチファイルの実行により削除されます。
::
::      リターンコード      ...      当バッチファイルの呼び出し側で、errorlevel 変数により判定可
::              0:          正常終了
::              1:          異常終了（サービス停止失敗）
::
::      setlocal

:: 定数設定

:: 1) fusion_place データベースフォルダ

set DB_FOLDER=c:¥FusionPlace_DB¥db

:: 2) データベースバックアップ先親フォルダ

set PARENT_FOLDER=c:¥FusionPlace_DB_Backup

:: 3) バックアップ保持日数

set RETENTION=60

:: 4) 停止待ち時間

set WAIT_SECONDS=60

:: 5) 停止待ち回数上限

set WAIT_LIMIT=10

:: 作業変数セット（バックアップフォルダ名）

set dt=%DATE%
set tm=%TIME: =0%
set
bacckup_folder=%PARENT_FOLDER%¥%dt:~10,4%%dt:~5,2%%dt:~2,2%_tm:~0,2%-tm:~3,2%-tm:~6,2%¥

:: *** Step 1. %RETENTION%日以前の古いバックアップを削除する ***

forfiles /P "%PARENT_FOLDER%" /D -%RETENTION% /C "cmd /c rmdir /s /q @file"

:: *** Step 2. FusionPlace サービスを停止する ***

sc stop FusionPlace
```



```

:: *** Step 3. FusionPlace サービスの停止を待つ ***

:: sc stop コマンドは即時に完了するが、サービスが本当に停止するにはその後いくらか時間を要する。
:: サービス停止するまで待つ。

        set wait_count=0

:loop_start
    :: 1. FusionPlace サービスの状態を表示する。

    echo %DATE% %TIME% ----- FusionPlace サービス状態表示 開始 待ち回数： %wait_count%
    sc queryex FusionPlace
    echo %DATE% %TIME% ----- FusionPlace サービス状態表示 終了

    :: 2. FusionPlace サービスが停止していれば、停止成功。

    set is_stopped=false
    for /f %i in ('sc queryex FusionPlace ^| findstr "STATE.*1.*STOPPED") do set is_stopped=true
    echo %DATE% %TIME% is_stopped=%is_stopped%
    if %is_stopped%==true goto successful

    :: 3. 待ちが%WAIT_LIMIT%回を越えてもサービスが停止していない場合は、停止失敗。

    set /a wait_count=%wait_count%+1
    echo %DATE% %TIME% wait_count=%wait_count%
    if %wait_count% GTR %WAIT_LIMIT% goto failed

    :: 4. %WAIT_SECONDS%秒待ってから停止確認を繰り返す(停止待ちループ先頭に戻る)。

    echo %DATE% %TIME% 約 %WAIT_SECONDS% 秒間 WAIT します。
    timeout %WAIT_SECONDS%
    echo %DATE% %TIME% 再開します。

    goto loop_start

:successful

:: *** Step 4. データベースコピー ***

        xcopy "%DB_FOLDER%" "%backup_folder%" /S /E /V /H /Y /R

:: *** Step 5. FusionPlace サービスを起動する ***

        sc start FusionPlace

        exit /b 0

:failed

    echo %DATE% %TIME% FusionPlace サービスを停止できませんでした。
    exit /b 1

```

fusions

<http://www.fusions.co.jp>